

Mランドニュース Vol.174

丹波ささ山校 令和3年10月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

七つほめて一つ指摘するくらいがよいね。
気分がよくなれば、他人の指摘も聞く気になる。
まるで魔術にかかったように。
船井 幸雄 氏

Mランドウォッチング

変チーム 前川 昂希



今年は一段と美しく感じます

暑い夏が過ぎ去り、高く澄んだ空のもと、Mランドでは今、自然から移ろいゆく季節を感じとることが出来ます。
「杜のコース」の傍らには秋桜が咲き誇り、夏の暑い時期を高山で過ごした小鳥たちも戻って、朝から気持ちのよい囀りを聞かせてくれます。

九月のある日、ロビーにいた私は、首からカメラをさげ、楽しそうに自転車に乗って出かけていくゲストを見かけました。
「丹波篠山で、若者が撮影したくなるようなものはいったい何なのか」と気にな

った私は、戻ってきた彼に声をかけてみました。
「何を撮りにいつてきたのですか」。すると、「近くの田んぼまで行って、野鳥を撮影してきました！」と笑顔でこたえてくれました。

小さいころからカメラが好きだった彼は、大学の生物研究会に入部したことをきっかけに、野鳥の美しさに目覚め、写真を撮り始めたそうです。
名古屋市内からお越しのため、教習の空き時間を見つけては、丹波篠山の大自然を、カメラ片手に撮影に行っておられたとのことでした。
お見せいただいた写真は、いつも見ている鳥たちとは思えない見事な美しきで、皆さまにも、是非ご覧いただきたいと思っています。

ホオジロ



いずれの写真も、丹波篠山の原風景と野鳥の美しさに感動を覚えたのと同時に、「丹波篠山」の素晴らしさを彼の写真を通して再認識させていただきました。

彼との教習中、こんなことがありました。
人生初の一般道路での運転という、緊張感の中走っていた彼が、突然目を輝かせて私に言いました。
「あつ、あの鳥！今、カメラで撮影できないのがホント残念すぎます」。

私も思わず笑ってしまいました。「カメラも野鳥も本当に好きなんだなあ」と、つくづく感じました。

チュウサギ



その後、少し緊張が和らいだのか、いろいろ鳥のことをお話ししてくださり、「免許を取得したら、ご両親の車を借りて、自分で運転して今まで行けなかった場所に野鳥の写真を撮りに行ってみたいですよ！」と、満面の笑顔で話してくれました。

車の免許を取ることで夢が膨らみ、彼の人生が豊かになることを想像すると、私まで幸せな気分になり、その後押しを微力ながらお手伝いさせていただけると、インストラクターの仕事は、本当にやりがいのある仕事だということ、彼に教えていただいたような気がします。

写真が好きな若者。音楽、

インヒヨドリ



スポーツなど、さまざまな分野に興味をもつゲストと共に学び、共に成長する。

これからMランドにお越しになるゲストにもこの気持ちを豊かにするためのお手伝いができるよう、彼のように笑顔で顔晴っていきます。



「杜のコース」にも秋の気配が

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にゴミ拾いをしましょう。

10/3(日) Mランド周辺 AM8:00~9:00 担当:前川

10/31(日) Mランド周辺 AM8:00~9:00 担当:中野

※当日はMランド集合です。(雨天中止) ご参加いただける方は井本までご連絡ください。

ありがとうの気持ち

毎日、技能教習で運転練習をしている教習車。

入校初日、周回コースを運転するのままたならず、運転の「難しさ」、それでも「楽しさ」を体で感じながらゲストの皆さんは日々上達されていきます。

そんな苦楽を共にしている教習車を自分の手で美しくしようと、この九月も洗車ボランティアに大勢のゲストが参加してくれました。

自らの手で洗車することで、自動車への感謝の気持ちといったわりの気持ちが芽生え、安全運転に繋がることは、私たちドライバーも見習わなければなりません。

九月とはいえ、汗ばむ日もあり、そんな中でも黙々と車磨きをされていました。



教習車も喜んでいるようです

ぜひ秋の丹波篠山へ

味覚の秋。特に、「丹波篠山黒枝豆」は、全国にも名を馳せる地元の名産です。

Mランド周辺の畑でも、見渡す限りに黒枝豆畑が広がり、近づく収穫時期に向けてすくすくと育っています。



高城山(丹波富士)の麓で育つ丹波黒枝豆

今月のありがとうカード

Mランドの皆さまへ

Mランドスタッフの皆様、約二週間お世話になりました。短い間でしたが、温かく接して下さって、楽しい思い出になりました。ここで学ばせていただいた「思いやりの心」を忘れずにセーフティドライバーを目指して頑張ります。サポートして下さい本当にありがとうございました。自分で運転して、ここまで来れるように頑張ります!!!

西條 愛佳 様

おもいやり

先月号で、株式会社タニサケ松岡浩会長が平成十年に発刊された、「全社員が嬉々として入社する人生道場を目差して」の文中、「怒」前段をご紹介させていただきました。

今月は、光景が目に見えかぶような後段をご紹介させていただきます。

生涯の中で大切にしたいのは、思いやりであります。

思いやりということ、こんなこともありました。中学生の夏休みの実習であります。知的障害をもったお子さんは、中学校を卒業すると、すぐに就職しないといけない運命も持っているようであります。

四年前に、地元の商工会長が当社へ「タニサケさん。知的障害をもったお子さんだけでなく、実習をやらせてもらえんやらか」とおみえになりました。作業能率のことを考えると、大変イヤであります。でも、いつもお世話になる会長のことだからと、やむを得ず引き受けたんです。最終日になりましたら、何

か分からない、さわやかな風を体に感じました。

次の年、また来ないかなあと待っておりまして。ありがたいことに、今度は学校の先生が「昨年よかつたんで、もう一度」ということで依頼に、おみえになりました。

今度は「ハイ！よろこんで」といつて引き受けました。この子達は、同級生よりちょっとの覚えが悪いというだけで、三年九組というクラスを作って、一年生から三年生まで一緒になって勉強をしております。

この子達を迎えたときに、私は、お弁当を見てびっくりしました。今日は、お母さんが寝てたから、と言って、弁当箱にご飯をつめて、自分でいり卵を作った持ってくる子、あるいはメロンパン一個の子、こんな大きなおにぎり一個の子もいました。

十時と三時に休憩があります。その十分間の休憩は、私どもの会社は自由にお菓子が食べれるようになっております。子ども達は、十分間の休憩で食べれるだけ食べて、そして、チャイムが鳴るとポケットの中にお菓子を一つこんで仕事に行くのであり

ます。うちの工場長は大きな「徳」のある男でありまして、この工場長がですね、この子ども達に『ありがとうございます』とおはようございます』とわずか二つの言葉を教えました。

最初は小さな声です。でも、次から次へと褒めるとです、だんだん大きな声になって、もう最終日には、すばらしいあいさつができるようになっていきました。

よくできたから、じゃあ最終日にはこの子達の激励会をしようということで、全社員が並んで、そしてこの子達は反対側に並んで、激励会をしました。そのときに、三番目に私の前に立って、あいさつをしようとした女の子が、私の前にきて、何も言わないで、あふれる涙を出してくれました。

この涙を見たときに、私はですね、ああ、この会社をやつてきて、いろいろなことがあつたけど、やってきてよかった、勇気のエネルギーが……。本当に何かもう……。また、これからも、という気持ちをいただきました。まわりの社員を見たら、みんな泣いているんです。この子達に、今あ

る自分達の幸せを教えられたんです。

知的障害者、あるいは身体障害者という方は、百人に二人と言われております。この人達が、たまたま、私達の代わりをやってくれているんです。この人達に思いやりをかけないといけないと思っております。

この実習を終わった後、男性の先生であります。この先生から長い手紙をいただきました。一部を読ませていただきます。

「お別れするとき、女生徒が涙しましたが、皆様で営んでいらしゃる、人間味のあるケジメと工夫に満ちた職場は本物であり、心を通わせることの大切さや、それなくしては成し得ない仕事、というものの意味を考えさせられました。

『念ずれば花ひらく』この子達なりに、どんな花が咲かせられるだろうか……。この先生もこの子達の先を案じてみえます。

混沌とした現代社会だからこそ、「人の役に立つ生き方」を、今一度、考えていかなければなりません。(徹)